

秋ですが…研究の花咲く桜最前線@梅田キャンパス



「次世代の機能や反応を求めて、どのように分子やポリマーの構造をデザインするのか？」

いきなり専門的な出だして恐縮ですが……、さる11月18日(土)午後、今春オープンしたOIT梅田タワー・本学梅田キャンパスにて、冒頭のテーマでユニークな研究を展開しておられる新進気鋭の研究者お二方をお招きし、応用化学科ならびに学科同窓会「桜花会」の共催「第3回 桜花城北セミナー」が開催されました。

まず、今吉 亜由美 先生(京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 助教)から「超分子化学の夢を拓いた研究~自己複製反応と不斉合成~」というタイトルのご講演を伺いました。先生は、大学院と博士研究員時代に自ら進んで難しい研究課題に取り組まれたそうですが、超分子(一言では説明できないのですが…)と顔料物質合成の分野で、芸術的とも言える結果を手に入れました。続いてご登壇いただいたのは 寺尾 潤 先生(東京大学大学院 総合文化研究科 教授)。小学校時代からゲーム好き・サッカー好きのコテコテ大阪人である先生は、「分子建築士が造る分子デバイス」について熱く語られました。「分子建築士」とは耳慣れない言葉ですが、その意味するところは東大・寺尾研ホームページを見れば分かります。先生は有機金属化学で研究をスタートされましたが、その後は持ち前の好奇心を発揮され、次々と新しい分野に挑戦されてきました。最近、世界に先駆けて「被覆型分子電線」というウルトラ・ミクロ(ナノ?)なデバイスの開発に成功されました。

お二方に共通するのは、まさに「セレンディピティ(ふとした偶然で幸せを得ること)」という言葉がピッタリのご研究体験。しかし、それを見事に研究成果として結実させるには、斬新な発想と鋭い観察眼、そしてアイデアを実行に移す行動力、が必要であることがよく分かりました。

今回は好奇心に溢れた本学学生(院生30名・卒研7名・3年次生12名)が参加し、それぞれのご講演後は次々と質問の手が挙がり、活気に満ちたセミナーとなりました。本学大学院進学予定の卒研 上田 和樹 君は「凄いアイデアばかり!研究を頑張ろうと思いました」と語っていました。また、寺尾先生と今吉先生からは、次のようなコメントをいただきました。「素晴らしいキャンパス・大好きな梅田で講演させていただき一生の思い出になりました」(寺尾先生)、「大阪工大の意欲的な学生さんがたくさん集まって下さり、とても嬉しかったです」(今吉先生)。

次回の桜花城北セミナーにもご期待!



寺尾先生のご講演



今吉先生のご講演



参加者全員で@OIT梅田キャンパス 2F セミナー室



●若手講演 14:10~15:10

「超分子化学の夢を拓いた研究 ~自己複製反応と不斉合成~」

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 今吉 亜由美 助教



●招待講演 15:20~16:20

「分子建築士が造る分子デバイス」

東京大学大学院 総合文化研究科 寺尾 潤 教授